



学校だより

はくれい

白山市立白嶺小学校
白山市立白嶺中学校
第16号
令和6年1月17日

頼もしい白嶺っ子を誇りに思います！

11日（金）の新聞に被災地から大勢の中学生が白山ろく少年自然の家に避難してくることが報じられていました。いったい何人の、何年生の中学生が避難してくるか全く分かりませんでした。生徒会役員に問いました。

「避難してくる同年代の人たちへ、私たちに何ができるだろう。」と。しばらく考えた後、「交流したい。」「一緒に学びたい。」口々にそう答えてくれました。避難所生活をしている人たちは、今どんな思いでいるだろうか。新学期を始められないでいる同年代の「仲間」は、今、何を望んでいるだろうか。短い時間にパッと思いを馳せて、被災地から来る「仲間」を温かく迎え入れたいと言ってくれました。会ったことはないけれど、傷ついているはずの「仲間」に手を差し伸べたいと考えたのです。



先日、白嶺の校歌「水と光と大地」を作詞された竹田真砂子先生（加賀市在住）から、「白嶺の子どもたちは無事ですか。」とお電話をいただきました。ご自身も大きな揺れに見舞われた中、作詞から16年近く経った今も、白嶺っ子のことを気にかけてくださっています。このように、いつも、いつまでも温かく見守ってくださる方々のおかげで、白嶺の子どもたちも他をいたわり、困っている人に温かい手を差し伸べたいと思うように育っているのだと思いました。

この白嶺っ子が、やがて大人になってもこの温かい心を育み続け、次の世代に伝え、繋げ、広げていってくれるものと期待せずにいられません。そして、今いる全ての白嶺っ子を誇りに思います。実現するか分かりませんが、白嶺の児童生徒たちは、災害で傷ついた「仲間」を温かく迎え入れたいと考えていますよと関係機関に伝えました。

誰かの痛みを分かち合う時、不便なことや窮屈なこともあるでしょう。しかし、耐えて、乗り越えた時、それ以上に大きな、かけがえのない成長をすることができると思います。今は耐えて「進化」しよう。ガンバレ白嶺の仲間たち。今こそ白嶺魂の見せ所だ。

